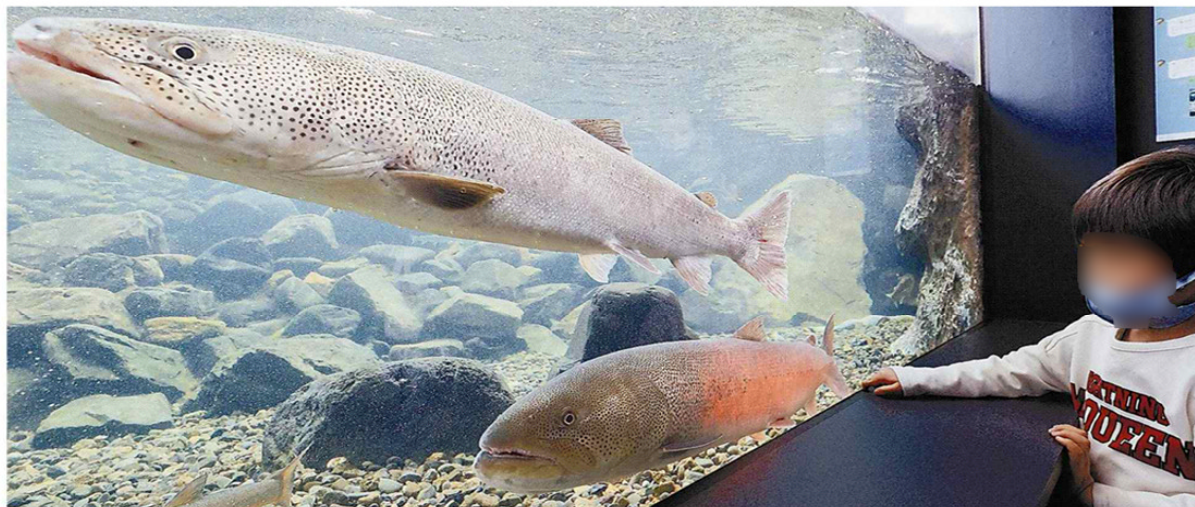





年 組 名前

道新で  
ワークシート

魚体が赤く染まったオスのイトウ（中央下）。上はメス＝高橋義英撮影

お年頃のイトウ 恋の赤色 ♡ 

山の水族館 9日まで展示

北見市留辺蘂町の「北の大地の水族館」（山の水族館）は4月29日、繁殖期にのみ見られる、赤い「婚姻色」を帯びたイトウの展示を始めた。水族館で赤いイトウが観賞できるのは珍しいといひ、来館者の目を楽しませている。イトウは繁殖期の3～5月、オスのみ魚体を赤色に変える習性がある。同館は2016年から、イトウを増殖している上川管内幌加内町の朱鞠内湖淡水漁業協同組合から赤くなったオスを借りて展示している。

昨年は新型コロナウイルスの影響で実施せず、2年ぶりの今年は体長約90センチの3匹を展示。うち1匹は太陽光の下で、より自然に近い状態で見てもらおうと、初めて屋外水槽「四季の水槽」に入れた。

同館によると、水族館で飼育したイトウが赤くなることはめったにないという。美幌町から家族で訪れた自営業の女性(35)は「子どもが魚が好きで、赤いイトウを見に来た。珍しいものが見られて良かった」と話した。展示は9日まで。

(先川ひとみ)

2021年5月1日(土)朝刊 地方(北見・オホーツク) 14ページ (記事は再編集しています)

- ①赤くなるのは、イトウのオス、メスどちらですか。
- ②ぼう線の部分に、「水族館で赤いイトウが観賞（かんしょう）できるのは珍（めずらしい）」とありますが、それはなぜですか。
- ③なぜ赤いイトウを水族館で見ることができたのでしょうか。次の中から正しいもの一つ選（えら）びましょう。
- ア 水族館の職員（しょくいん）がオスのイトウに赤い「婚姻（こんいん）色」の帯（おび）をまいたから
- イ オスとメスを同じ水槽（すいそう）で展示（てんじ）しているから
- ウ 赤くなったオスを借（か）りて展示（てんじ）しているから
- エ 太陽光の下で、より自然に近い状態（じょうたい）で見てもらおうと、初（はじ）めて屋外水槽（すいそう）「四季（しき）の水槽（すいそう）」に入れたから